

自動真空包装機 SUZ-260PD 機能説明

各部の説明



ケースオープン時



操作パネル部



型 番	SUZ-260PD
消費電力	100V 50/60HZ ヒーター線 1050W 真空ポンプ 550W
外形寸法	W330 x D480 x H350 mm
チャンバー内寸法	W280×D380×H50+40 (計 90) mm
シール長	幅 8mm X 長さ 260mm
重 さ	30Kg
空気排出能力	12m ³ /h (99.9%到達まで約 30 秒)
真空能力	< 1.066KPA

飲食店様、レストラン様
向けに開発されております。
食品保存から、真調理に、
一台あれば役に立つこと
間違いなし！

- ・ 実用的に使える最大の袋のサイズは 25×38 c m。
- ・ 連続使用時間は最大 45 分間です。それ以上使う場合は 2 時間程度休ませて下さい。

わかりやすい真空包装機の使い方 1

製品出荷時に基本的な設定をしております。まずは機械を使ってみてください。



- 1、背面のメイン電源を入れます。
(上に上げる。)



- 2、右側のロックを外し、ふたを開けます。



- 3、正面の電源ボタンの ON を押します。



- 4、一日の初めに使い始めるとき、ふたをゆっくり下げてモーターが回ったところで止め、(完全にふたを閉めないで) 10 秒程度モーターを回す。ふたを上げ5秒休む。この暖機運転の作業を行ってから使い始めてください。
(気温が5度以下の場合、ポンプ内のオイルをよりほぐすため、2セット行ってください。)



袋の口がはみ出さないように注意する。

- 5、袋に入れたものを中に入れ、押さえのバーをかぶせます。このとき袋の口がチャンバー内に入るように入れてください。



- 6、両手で体重を乗せるようにふたを閉め、2、3秒押さえつけます。すると、自動的に空気を抜いていきます。



- 7、タイマーが0になり、密封シールを自動的にしてふたが開けば完成です。



- 8、さまざまな食品などに対応してます。いろいろ使ってみてください。

- 9、45分ぐらい連続で使用した場合、2時間ぐらいポンプを休ませてください。(ポンプのオーバーヒートを防ぐため)

わかりやすい真空包装機の使い方 2

用途に応じてさまざまな設定ができます。



下側のセットボタンを押す。

- 1 回押す→排出時間の調整（空気の排出のランプ）
- 2 回押す→シール時間の調整（密封シールのランプ）
- 3 回押す→冷却時間の調整（冷却のランプ）
- 4 回押す→END 表示（ランプが消え Ed 表示）



1、排出時間の調整（空気を抜く時間）

空気の排出のランプがついているとき、▲▼で調整できます。
調整したら、セットボタンを3回押してEDを表示させます。

基本設定 SUZ- (260PD=33秒、350M (100V) =45秒、
350L(200V)=22秒、390H=34秒、400W=24秒)



2、シール時間の調整

袋の厚み、素材（ナイロン、アルミパックなど）によって微調整します。

密封シールのランプがついているとき、▲▼で調整します。

通常 1.2 から 1.5 でちょうどいいです。

調整したらセットボタンを2回押してEDを表示させます。

**注意：極端に 3.0 以上にしないで下さい。すぐにヒーター線が切れて
しまいます。**



3、冷却時間の調整

袋の厚み、素材によって微調整します。

冷却のランプがついているとき、▲▼で調整します。

通常は 2.0 でちょうどいいです。

調整したらセットボタンを1回押してEDを表示させます。



4、シール温度の調整

袋の厚み、素材によってシール温度を調整します。

1 回押すたびに移動します。（ランプが付いていないときは、シール
機能が OFF になり、シールしません。）

通常は真ん中の中温でちょうどいいです。

**注意：高温はなるべく使わないこと。使っても、シール時間を
2.5 以上上げないでください。**

メンテナンスについて

1、ポンプオイルの交換（とても重要です。）

オイルは後ろの窓から見て、汚れていたら交換してください。（期間や、回数に関係なく、とにかく汚れてきたら、交換です。）量は窓から見て半分ぐらいがちょうどいいです。購入初期は特に毎週のようにチェックして、汚れを確認してください。汚れたまま使い続けるとポンプが破損してしまいます。オイルを継ぎ足す行為は逆効果です。必ず交換です。

新品時



透明か、やや黄色。

ちょうど変え時



小さい穴が見えにくくなっている。

ちょっと汚れ過ぎ



小さい穴がほぼ見えない。

すでに手遅れ

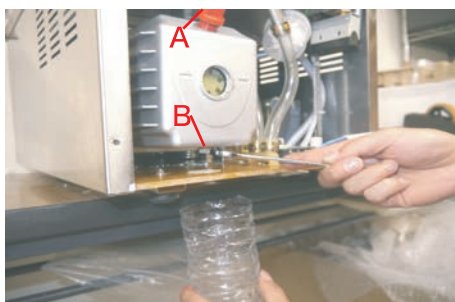


明らかに内部にさびが発生している。

準備するもの： ①ペットボトルなどの受け容器（廃油入れ） ②プラスドライバー
③10ミリのスパナ ④オイル注し



① 機からドレンボルト分をはみ出して下に容器を用意する。



② Aの赤いキャップをゆるめる、ペットボトルをネジの下に用意し、10番のスパナでBのネジを半分ゆるめ、手で外して廃油を抜け出します。



③ 平らな所に戻し、少しずつオイルを入れる。（半分まで）

真空ポンプオイルについて

この機械の真空ポンプに使用する真空ポンプオイルは、弊社指定のオイルをご使用ください。

オイルにはそれぞれ粘度（硬さ）や発火点などが異なり、合わないオイルを入れると真空ポンプが故障してしまう可能性があります。（尚、他社製の真空ポンプオイルを使用して機械が壊れた場合、保証期間中であっても保証対象外です。）

2、ヒーター線保護用テフロンテープの交換

熱で融着するところのテフロンテープが焦げてしまっていて、ヒーター線が見えてしまっていたら交換してください。（そのままにしておくとヒーター線が切れたり、きれいにシールできなくなります。）

この部分



その他、覚えておくと便利な使い方、注意点など①



① 電源ボタン

ONを押すと使えます。必ずふたを開けてから ONにしてください。

長時間使わないときは、後ろのメイン電源をお切りください。

また、真空をかけて、やり直したいとき、(ストップしたいとき) OFF を押して、すぐ ON を押すと、シールせず、やり直すことができます。

② ジャンプボタン

真空作業の途中(空気の排出の途中)でシール作業に強制的に移行します。

液体のふきこぼれ防止や、1つだけ真空せずシールのみしたい、といった場合に便利です。

シールのみしたい場合、最低でも真空計が 0.06 以上のところでジャンプしないと、きれいにシールができません。

③ 表示パネル

□□のマークのまま、放置しないでください。(真空が終わってもふたを閉じたままの状態) 電磁弁の部品が壊れてしまいます。

edという表示は、END (エンド) つまり作業が終わりましたというサインであり、エラーコードではありませんのでご安心ください。 _ _ の表示も同じです。

④ シール温度設定ボタン

暖機運転するとき、カウントダウンが0になると、電熱線に電気が流れ、発熱します。

この際、ふたが開いた状態、つまり酸素がある状態だと、煙が出たり、発火する可能性があるため、0までやるならシール温度ボタンを何回か押して、ランプがどこにもついていない状態(切)にして、暖機運転をしてください。

その他、覚えておくと便利な使い方、注意点など②

使用上の注意点

- 真空ポンプオイルは半分～半分より少し上ぐらいがちょうどよいです。

基本的には継ぎ足さず、入っているオイルをドレンボルトから抜いて、新しいオイルに交換してください。汚いオイルのまま使用すると、ポンプが壊れてしまいます。

(機械を1, 2年で壊してしまう人のほとんどが、オイル交換を怠ったためです。)

新規購入後は、毎週のように定期的にオイルの汚れ具合をチェックし、汚れのタイミングを見て、交換してください。

交換したら、次回の時期を忘れないよう、次回のオイル

交換時期をメモに書いて、機械に貼り付けておくと、忘れません。

メモの例 (機械に貼っておく)

2021/1/10 オイル交換 OK
次回 2021/4/10

- 普段の電源はフロントパネルの ON,OF で電源操作が可能ですが、待機電力の無駄を避けるため、できれば一日の終わりには後ろのメイン電源をお切りください。

また、長期間使わないときは、安全のためにも、電源コードを抜くか、後ろのメイン電源をお切りください。

- 1年の内、シーズンの時期だけ使う時の注意

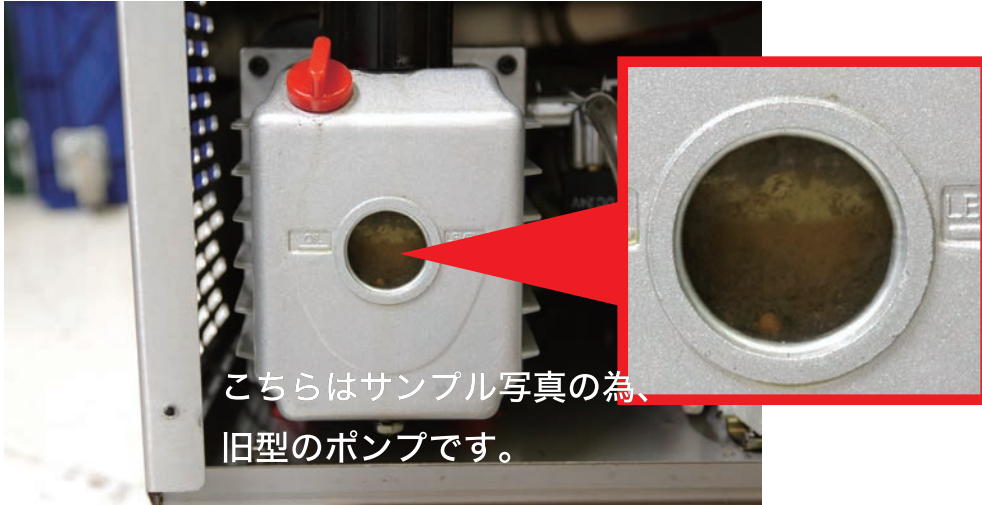
例えば、12月だけフル稼働し、2月から11月までは全く使用しない、といった場合は、1月の終わりの段階、つまりこれから使わなくなるタイミングで必ずオイルをすべて抜くか、オイル交換をしてください。(理由：真空ポンプ内に、水や動物性油が入っていると、サビつきの原因や、汚れの固形化の原因になります。)

- 真空ポンプオイルは、必ず弊社指定のものをご利用ください。

(理由：オイルの硬さ、発熱のしやすさ (発火点)、気化する時期が、特有です。)

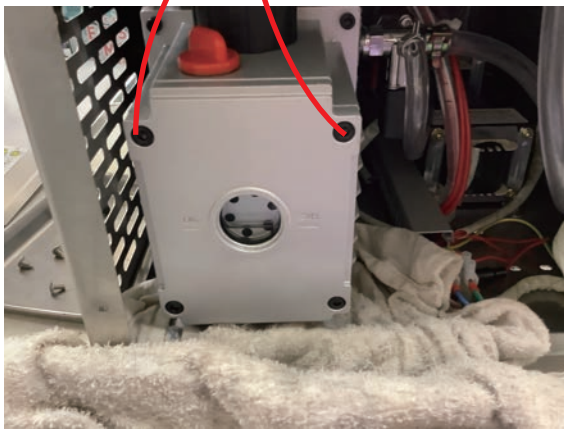
- 液体を真空パックするときは、こぼさないように、ずっと見ていてください。万が一液体が噴出してこぼれてしまったら、すぐにふき取ってください。(シールユニットを持ち上げ、青い空気袋の下も)

オイル窓が汚れて見えなくなってしまうたら

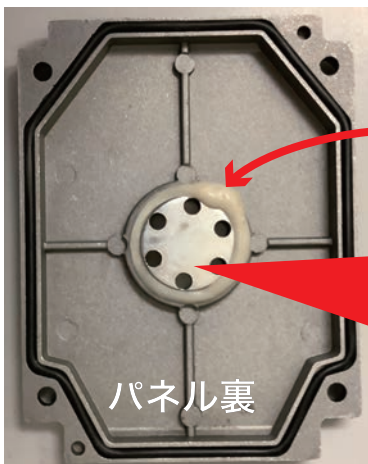


長期間オイル交換をしていないとオイル窓が汚れてしまい、
オイル残量が確認できなくなります。
そうなる前に定期的にオイルを交換する必要がありますが
既に汚れて見えない場合、パネルを外して掃除することができます。

4つのネジ



- ① オイルを全て抜く。
- ② タンクの下に雑巾を敷く。
(パネルを外すと多少オイルが溢れてくるため)
- ③ 4つのネジを付属工具で外し、
ポンプタンクのパネルを外す。
- ④ 内部に貯まった汚れを掻き出し
パネルを水で洗うか、パネルだけ新品に交換する。



このシリコンは絶対に外さないでください。



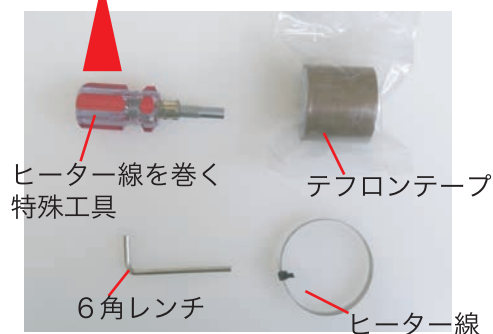
汚れがなかなか落ちない場合は
この穴から綿棒等を入れて
キレイにしてください。

ヒーター線の交換

(シールが付かない、密封ができない、発熱しない場合)



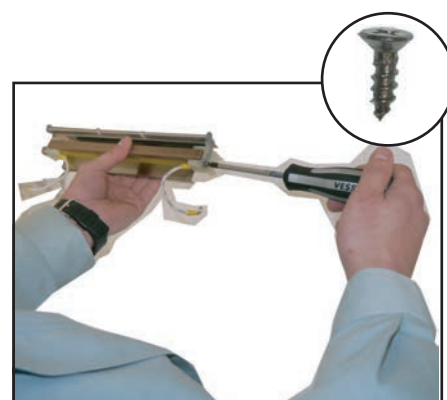
棒部分を引っ張ると、ヒーター線を巻く工具と、プラスドライバーにもなります。



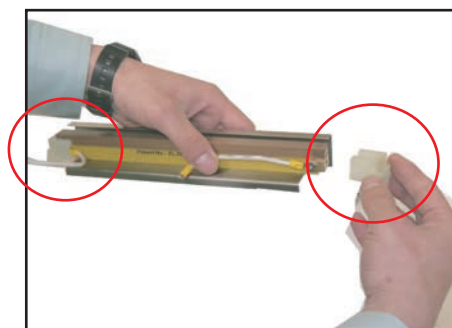
①付属品から、写真の部品、道具を取り出します。さらに、ご自身でニッパーと、カッターをご用意ください。



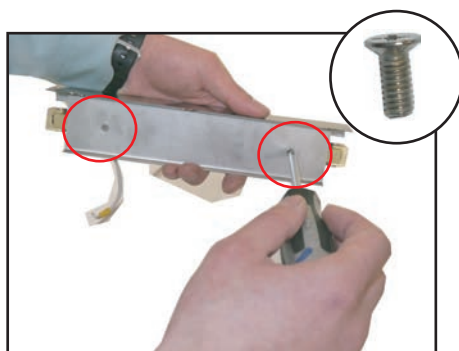
②両サイドの導線を本体に止めてあるプラスのネジを外します。(2箇所)



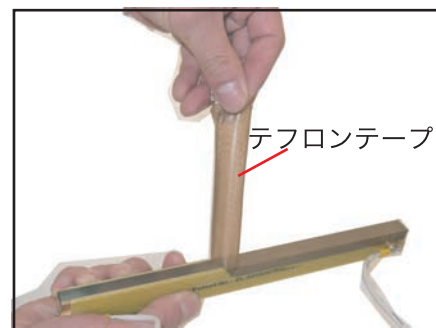
③シールユニットの袋を押さえる棒を外すため、両側のプラスのネジを外します。(2箇所)



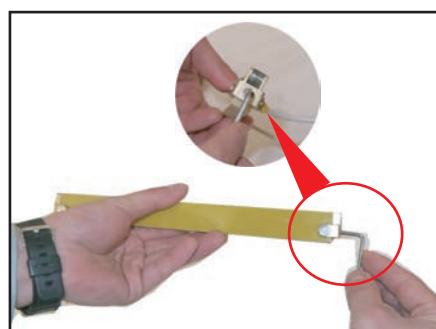
④両サイドのプラスチックのパーツを引っっこ抜きます。(2箇所)



⑤シールユニットの裏側のネジを外します。(2箇所)

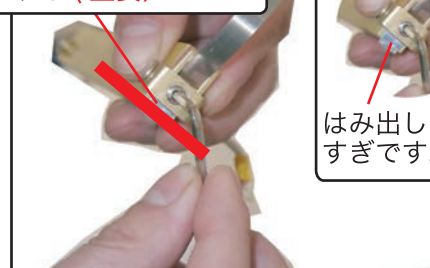


⑥テフロンテープ (茶色いテープ)をはがします。



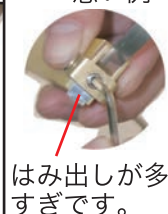
⑦写真の位置の六角穴付きボルトを緩めます。(左右2箇所)すると、ヒーター線が外れます。

はみ出しを0～2ミリにする(重要)

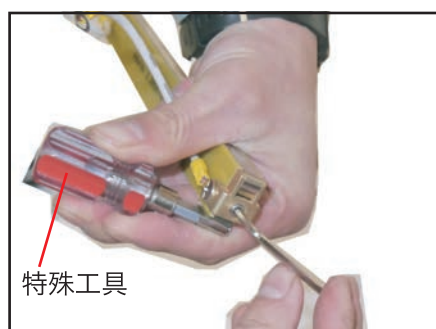


⑧今度は新しいヒーター線を取り付けます。このとき、はみ出し部分を0～2ミリにしてください。

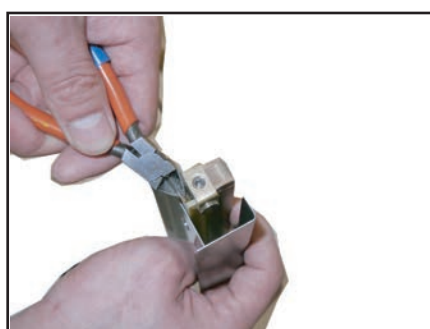
× 悪い例



⑨反対側のヒーター線を金具に通し、手である程度、引っ張りします。



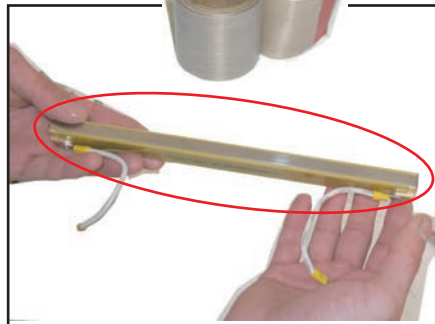
⑩はみ出したヒーター線を特殊工具でしっかりと張ります。もう片手で6角ネジを締めて、固定します。



⑪余った部分をニッパーでカットします。このときもぎりぎり短くカットしてください。黄色の土台より、はみ出したらアウトです。(重要)

▶
裏面へ

テフロンテープ



⑫この上に、テフロンテープを貼ります。はさみで切って貼ってください。



⑬金具部分にかかった余分なテープを形に合わせてカットすると、はがれにくいです。



⑭あとは逆の手順で各部品を取り付ければ完成です。

本体に取り付ける前に今一度チェックしてください。

○ 良い例



ヒーター線が黄色の土台より、はみ出していない。

× 悪い例



ヒーター線が黄色の土台より、はみ出している。

ヒーター線が土台よりはみ出していると、チャンバー室に接触してしまい、漏電となって発熱がうまくできません。また故障につながるので、お気をつけください。

ヒーター線を交換しても直らない場合、シールユニットの両サイドの2本の導線が劣化している可能性が高いです。



劣化した導線



断線している、または断線しそうだ。
(端子部分を手で引っ張ってみて、ぽろっと取れるようだとアウトです。)

パッキンの交換 ①

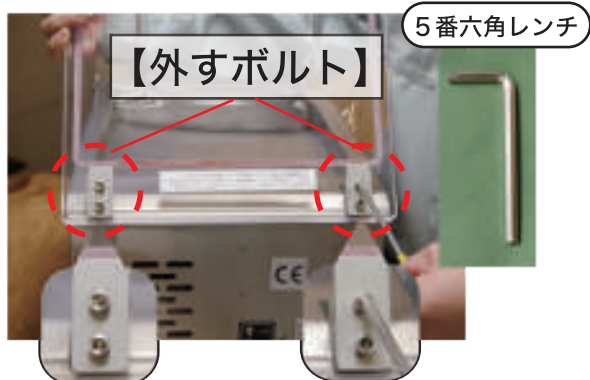
後方



①パッキンの【裂け】や【欠け】を確認したら、パッキン交換をします。



②本体後方から、ふたの根元ボルト 4 つを 5 番六角レンチで外します。(根元に負荷が掛かる為、ふたを開けたままの状態を外します。2 人で作業すると、やりやすいです)



【重要】

③ふたと根元の間に高さ調整用の【ステンレス板】が入っていた場合は、入っていた所が分かるようにメモして下さい。



※写真では、右側に 2 枚のステンレス板が入ってました。取り付ける際に分かるように覚え書きして下さい。

④ふたをひっくり返して置き、古いパッキンを引っ張って外します。
【スキマ調整用の材料】や【白い修正剤】などが入っている場合は、そのままにしておいて下さい。



⑤新しいパッキンの先を片側だけ（もう片方は仕上げの際にカットします）、カッターで【垂直】にカットします。

× デコボコしていて失敗です。



○ 真っ直ぐにカットされています。



パッキンの交換 ②

⑥新しいパッキンを溝に入れます。伸ばしながら入れるのではなく、詰め込みながら入ると良いです。パッキンの向きはビラビラが外にくるようになります。

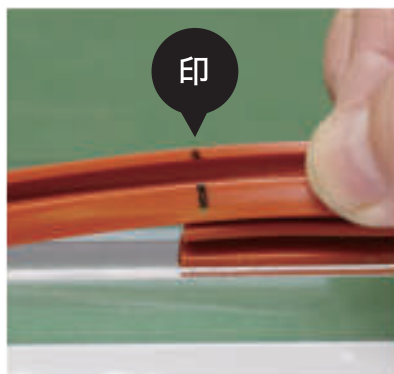
重要！



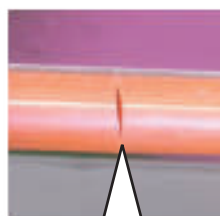
※ビラビラは外向きです。



⑦最後の繋ぎ目は、3ミリほど長めに印を付けてカットし、溝に入れます。
(斜めにカットしたり短くカットすると、そこから空気がもれてしまいます。)



※悪い例



※良い例



ここから空気がもれてくるので、完全真空できなくなります。

⑧カットに失敗した時は、5センチほど切り、余っているパッキンで【繋ぎ】を作り、溝に入れます。(垂直にカットして下さい。)



⑨ひっくり返したふたを元に戻し、②で外した根元との取り付け作業をおこないます。
(あらかじめ高さ調整用のステンレス板があった際は、メモしていた所へ忘れずに取り付けて下さい。)



パッキンの交換 ③

■パッキンの交換後に完全真空がされない場合、以下の箇所を確認して下さい■

【症状】パッキンの繋ぎ目から、空気もれている。

【対処】繋ぎ目を垂直にカットする。

※悪い例

※良い例

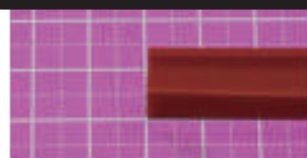
【原因】



ここから空気がもれてくるので、完全真空できなくなります。

× デコボコしていて失敗です。

○ 真っ直ぐにカットされています。



【対処】

カットの仕方は、「パッキンの交換・説明書その2」の⑦と⑧をご参照下さい。

【追記】

交換後1～2ヶ月経ってパッキンのゴムが戻ろうとする性質で、繋ぎ目にスキマが生じた際は、「説明書その2」⑧の【繋ぎ】を作成して下さい。
※その為に余ったパッキン、あるいは古いパッキンを少し取り置き下さい。

少し長めに印しを付けて、【繋ぎ】をカットします。

【繋ぎ】を詰め込みます。



【症状】・パッキンと本体の接触面にスキマがあり、空気がもれている。

- ・フタを押さえる場所によって、真空できたりできなかったりする。
- ・フタが固い。(思い切り体重を乗せて閉めないでと作動しない)

【対処】空気がもれている所に、「スキマ調整用の材料」を入れる。

■「空気もれ箇所」の確認方法■



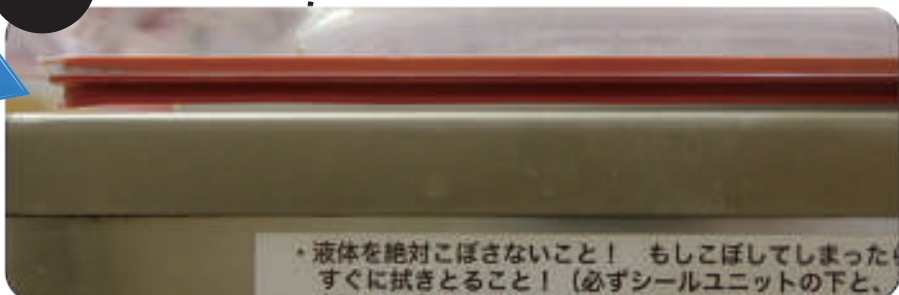
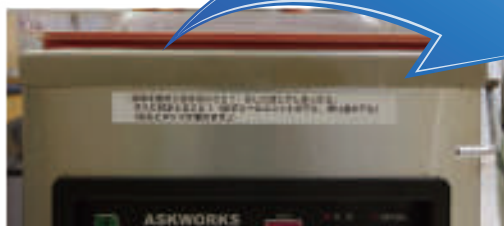
電源ON後、マークの所を一箇所だけ手で押さえ、フタがぴたっと吸い付き、真空を開始すれば正常です。(一箇所ずつ試していきます。)

吸い付かない場合は、押さえた箇所以外にスキマが生じていないか確認して下さい。

その4へ続きます。

【原因】

このスキマが原因です。



・液体を絶対こぼさないこと！ もしこぼしてしまったら、すぐに拭きとること！ (必ずシールユニットの下と、)

パッキンの交換 ④

■スキマ調整用の材料を用意します■

厚紙などを5ミリ幅に切り、透明のフタの溝とゴムパッキンの間に
入れる事でゴムパッキンを盛り上げ、スキマを小さくします。



- ・材料はティッシュペーパー箱の厚紙などで大丈夫です。
- ・スキマが大きい場合は、さらに厚紙をのりで重ねて厚い調整材にして下さい。

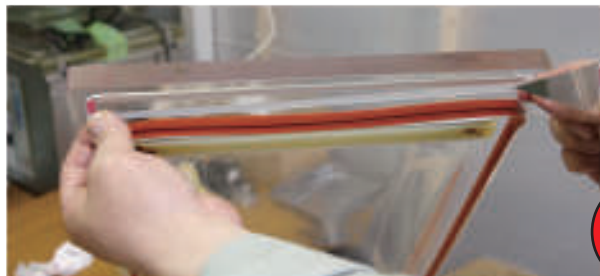


■ゴムパッキンをダメな箇所のみ、めくります。※絶対にパッキン全部を外さないで下さい■



注意！ 調整材を入れる箇所のみ、めくって下さい。

■調整材を溝に入れます■



注意！ 再度長さが合っているか確認してから、調整材を入れて下さい。



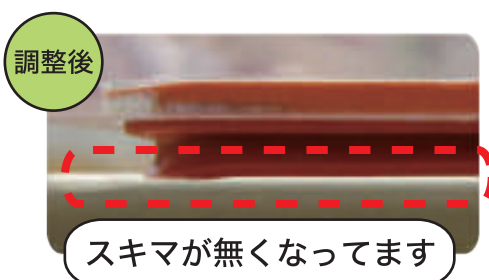
スキマに応じた厚さの調整材を入れます。
位置が安定しない場合は、のりなどで
固定してから、入れて下さい。

注意！ ※のりを塗る際、あまりはみ出ないように塗り、
溝に固定して下さい。のりが多量にありますと、
メンテナンス時の妨げになりますので、
ご使用は適量でお願い致します。

■パッキンを戻します■



白く塗られている
部分がスキマです



追加説明 ヒューズの交換方法

■ 電源を入れ、液晶表示のカウントダウンはするけどポンプが回る音が全くしない場合
ポンプを保護するヒューズが切れている可能性があります。

■ 適応ヒューズ ■

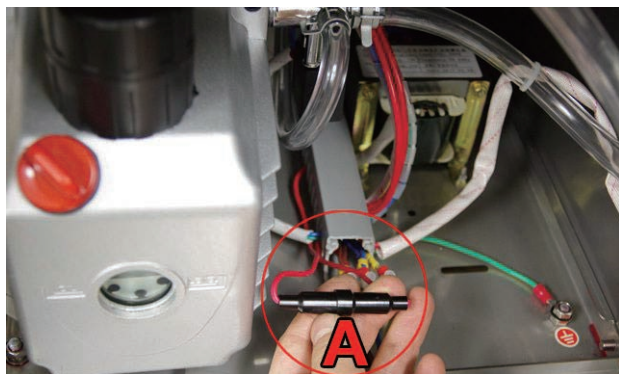
10 A (125 V または 250 V)、長さ30mmのガラス管ヒューズ



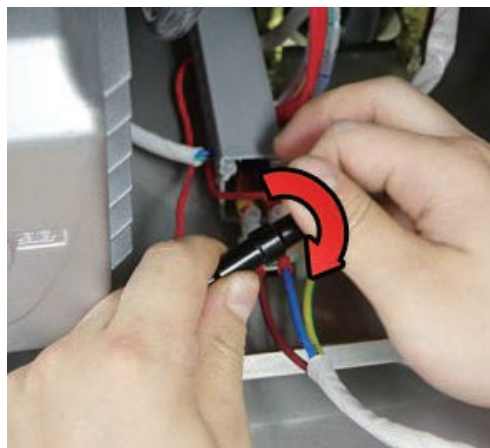
①電源コードを外します。
本体背面の4つのネジをドライバーで外し、
背面パネルを外します。



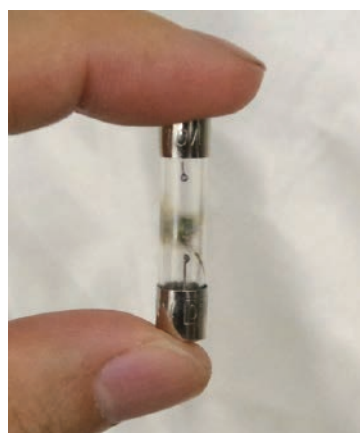
※付属品の予備のヒューズは
外した背面パネルの内側にあります。
ない場合はお問い合わせください。



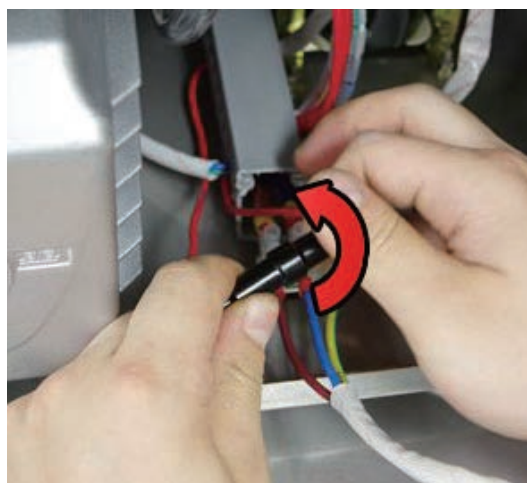
②背面パネルを外した後、内部のAに注目して
下さい。
黒いプラスチックの筒状ケース内にヒューズが
入ってます。



③黒いケースの左側を抑えて、右側を矢印方向
(手前側) に回して、ケースを開けます。



④ヒューズが切れていたのが確認できます。



⑤新しいヒューズを黒いケース内に入れて、
ケース右側を矢印方向 (奥側) に回して、
ケースを閉めます。